

# 三河の昆虫

MIKAWA NO KONCHU

The Mikawa Insects Association



2001年 2月

〒444-3511  
岡崎市舞木町狐山6-4  
大平仁夫方  
三河昆虫研究会発行  
(郵便00830-9-14465)

## ツマグロヒョウモンが激増した理由の解明

杉坂美典・杉坂梢

### 1. はじめに

ツマグロヒョウモンは、以前は岡崎市内の桑谷山や小美などでわずかの記録がある程度であった。しかし、ここ数年間は、5月下旬から12月上旬にかけて市内の各所で非常に多くの固体を観察できるようになった。そこで、その理由を解明することにした。

### 2. 仮説

下記の3点の理由によって、ツマグロヒョウモンが多産するようになったと仮説を立てた。

- (1)以前から本種が発生し、連続して越冬できている紀伊半島や静岡県などの産地から、その周辺地域が温暖化し、食草が栽培されるようになったことによって、徐々に本種の分布が拡大し、ついに岡崎市にまで本種が飛来するようになった。

た。

- (2)岡崎市の冬期の最低気温が上昇し、岡崎市でも幼虫が越冬できるようになった。
- (3)岡崎市でも各所で食草のスミレ類が栽培されるようになり、越冬できた幼虫が必要とするエサの供給があるため、初夏から晩秋にかけて多数の固体が発生するようになった。

### 3. 気温に関する資料の収集

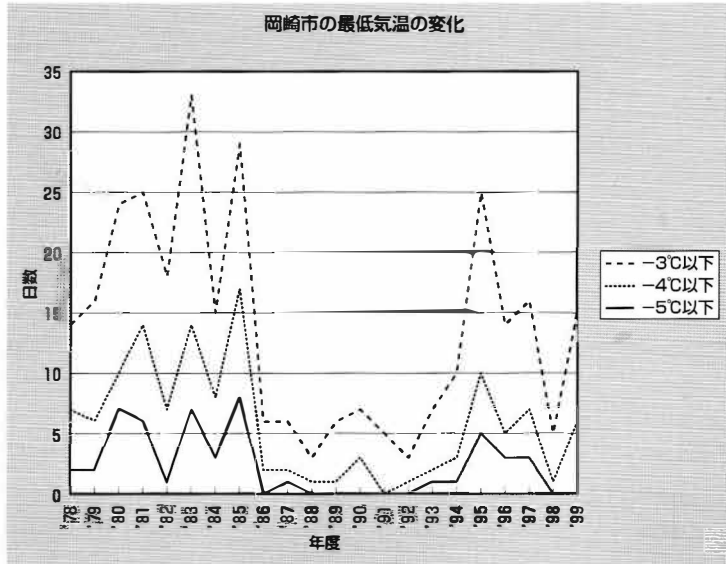
岡崎市における12月から3月までの毎日の最低気温を1978年から1999年までの22年間について、岡崎市立図書館、および名古屋地方気象台に出かけて調べた。

### 4. 調査結果

岡崎市の冬期の最低気温を集計すると下記の資料1のようになった。

年度	'78	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88
-3℃以下の日数	14	16	24	25	18	33	15	29	6	6	3
-4℃以下の日数	7	6	10	14	7	14	8	17	2	2	1
-5℃以下の日数	2	2	7	6	1	7	3	8	0	1	0
年度	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99
-3℃以下の日数	6	7	5	3	7	10	25	14	16	5	15
-4℃以下の日数	1	3	0	1	2	3	10	5	7	1	6
-5℃以下の日数	0	0	0	0	1	1	5	3	3	0	0

(資料1) 岡崎市の冬季の最低気温が-3℃~-5℃を下回った日数



(資料2) 岡崎市の冬季の最低気温が-3℃~-5℃を下回った日数のグラフ

1997年の夏期に15頭が記録されたことを考えると、本種の越冬可能な最低気温は、-4℃を境界にしているように思える。

●1998年、99年は、-4℃以下の日数は、暖冬期と大差なく、多数の個体が発生するようになった。

●本種の食草は、自然状態で分布しているスマレ類を主な食草としているが、観葉植物として栽培されているビオラなどのスマレ類も好んで食することから、市内の各所で発生が見られるようになった。

年 度	'78	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88
ツマグロヒヨウモンの記録数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年 度	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99
ツマグロヒヨウモンの記録数	0	0	0	0	0	1	4	1	15	123	116

(資料3) 年別のツマグロヒヨウモンの記録数

### 5. 考察

- 1986年から94年までの暖冬によって、紀伊半島や静岡県などの暖かい地方に生息していた本種は、分布域を北上したものと考えられる。
- 1994年に岡崎市で1頭が採集されたが、他にも少ないながら市内に生息していたと考えられる。
- 1995年夏期には、市内で数頭の個体が採集され、前年に越冬した個体からかなりの数の個体が発生したと思われる。
- 1995年12月から1996年の3月にかけて寒い日が続き、前年の夏期に発生した個体の多くは死滅したと考えられる。しかし、わずかな個体は、越冬できたと思われ、1996年には、1頭の本種が採集された。
- 1996年は、-3℃以下の日数は1986年以前とあまり変化はないが、-4℃以下の日数は、1986年から1994年までの暖冬の期間と変わりなく、

### 6. おわりに

2000年も岡崎市にツマグロヒヨウモンは多産した。私が勤める岡崎市立井田小学校の校庭の花壇には、ほぼ毎日、数頭の個体が飛来していた。そして、花壇に植えるためのビオラの若葉に次から次へと産卵を繰り返している本種の雌を見ていると、今からちょうど30年前に沖縄で初めて見た本種の産卵の光景が想起され、岡崎市でこの光景が見られることに感動をおぼえた。

地球の温暖化が、このような形で現れていることを喜んでよいのか、環境の悪化の現状として悲しむべきことなのか、複雑な気持ちである。しかし、昆虫愛好家としては20世紀末から21世紀元年の最低気温が余り下がらず、21世紀の夏も本種が自由に飛び回っている姿を見たいという気持ちでいっぱいである。

# 愛知県産ジョウカイボン科の記録

桐山 功

愛知県から記録されたジョウカイボン科は佐藤 (1990) が24種、長谷川 (1996a) が20種、長谷川 (1996b) が16種を挙げるなどまとまった記録のほか、数多くの短報がある。しかし、今回1981年以降にまとめられたジョウカイボン科についての分類学的な研究に従い、筆者自身の実見できた標本に基づいて、愛知県産ジョウカイボン科の記録をすることにした。なお、この報告で愛知県での新記録の種については写真を添付した。また、この記録で採集者名が特記されていない場合は、すべて筆者が採集したものであり、この報告に使用された標本は筆者と高井泰氏が保管している。

この報告をするに当たり、標本を恵与していただいた岡崎市の大平仁夫博士と岐阜県宮村の高井泰氏に厚くお礼申し上げます。

## ジョウカイボン亜科

### 1. *Podabrus (Hatchiana) heydeni* Kiesenwetter クビボソジョウカイ

北海道を除いて普通に産し、桐山 (1997, 1999, 2000a) は設楽町井戸沢と稲武町三国山、小原村荷掛から記録しているが、次の記録もある。

瀬戸市海上の森、2-VI-1996, 1♂4♀, 高井泰採集

豊田市広幡町四ツ家, 15-V-2000, 1♀

### 2. *Podabrus (Asiopodabrus) macilentus* Kiesenwetter ヒメクビボソジョウカイ

本州西部や四国の低山帯に広く分布しており、桐山 (1998) は瀬戸市東京大学愛知演習林から記録している。

### 3. *Podabrus (Asiopodabrus) yushinensis* Takahashi ユーシンクビボソジョウカイ

関東地方を中心に分布しているが、桐山 (1997, 2000a) は設楽町胡麻沢林道と同町裏谷、稲武町三国山から記録しており、次のような記録もある。

豊田市広幡町四ツ家, 15-V-2000, 1♂

### 4. *Podabrus (Asiopodabrus) kuroisawanus* Takahashi et Kiriyama クロイサワクビボソジョウカイ

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 3♂

本種はTakahashi et Kiriyama (2000) が中津川市黒井沢や長野県上村御池山、静岡市安部峠からの標本に基づいて記録した種であるが、愛知県からは初めての記録である。

### 5. *Podabrus (Asiopodabrus) naratougeanus* Takahashi et Kiriyama ナラトウゲクビボソジョウカイ

本種はTakahashi et Kiriyama (2000) が岐阜・愛知・三重・長野・石川5県の各地から採集した標本に基づいて記載した種である。近似種である*P. (A.) syozoi* Nakane et Makino ショウゾウクビボソジョウカイや*P. (A.) palustris* Nakane et Makino ニッコウクビボソジョウカイなどとは♂交尾器の構造によってはっきり区別することができる。

原記載により桐山 (1997) が*Podabrus syozoi palustris* Nakane et Makino として設楽町井戸沢から記録した種はすべて本種であるとされた。

### 6. *Podabrus (Asiopodabrus) takaii* Nakane et Makino タカイクビボソジョウカイ

桐山 (2000a) は稲武町三国山から記録している。東海地方を中心に春早くから広い河川敷で採集されることが多いが、低山地でも捕れる。他に次の記録がある。

豊橋市江島 (豊川畔), 9-V-2000, 1♂1♀

### 7. *Podabrus (Asiopodabrus) hinakurai* Takahashi ヤマウスイロクビボソジョウカイ

桐山 (2000a) は稲武町三国山から記録している。関東地方以北に分布する*P. (A.) temporalis* Harold ウスイロクビボソジョウカイに近似して

いるが、♂交尾器の形を見ればはっきりと区別できる。他に次のような記録がある。

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 3♂2♀

設楽町裏谷, 3-VII-1996, 2♂2♀

設楽町井戸沢, 24-VI-1996, 1♀

設楽町段戸山, 27-V-1996, 2♂2♀

豊田市広幡町四ツ家, 15-V-2000, 1♂1♀

8. *Podabrus (Asiopodabrus) lictorius* Lewis  
ミヤマクビボソジョウカイ

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 2♂1♀

豊田市広幡町四ツ家, 15-V-2000, 4♂4♀

岐阜県では南部しか生息しておらず、愛知県から紀伊半島にかけて多数採集できる。

9. *Podabrus (Asiopodabrus) yoshidai* Nakane  
ヨシダクビボソジョウカイ

瀬戸市海上の森, 2-VI-1996, 1♀、高井泰  
採集; 16-VI-1996, 1♂, 高井泰採集

豊田市広幡町四ツ家, 15-V-2000, 2♀

近似種の *P. (A.) kiso* Nakane キソクビボソジョウカイとは♂交尾器の構造が異なることによっ  
てはっきり区別することができ、岐阜県などに多いこのキソクビボソジョウカイとは愛知県やその  
南の紀伊半島などで明らかな棲み分けをしている。

10. *Podabrus (Asiopodabrus) malthinoides*  
Kiesenwetter クロヒメクビボソジョウカイ

本州・四国の低山帯に割合広く分布しており、  
桐山(1998)は瀬戸市東京大学愛知演習林から記  
録している。*P. (A.) kadawakii* Nakaneカドワキ  
クビボソジョウカイに外形が酷似しているが、♂  
交尾器を見ればはっきりと区別できる。

他に次のような記録がある。

瀬戸市海上の森, 26-V-1996, 3♂, 高井泰  
採集; 2-V-1996, 1♀, 高井泰採集

11. *Podabrus (Asiopodabrus) hiwadanus* Taka-  
hashi et Kiriyaama ヒワダクビボソジョウカイ

稲武町三国山, 5-VII-1999, 4♂4♀

本種はTakahashi & Kiriyaama (2000)が岐阜  
県高根村日和田と長野県安曇村岩魚留から採集さ  
れた標本に基づいて記載した種であるが、今回初  
めて愛知県からも記録された。*hinokiboranus* 群

として、本種と近似の種が本州に5種1亜種存在  
するが、♂交尾器を見ればはっきりと区別できる。

12. *Podabrus (Asiopodabrus) shiraisawanus*  
Takahashi et Kiriyaama シライサワクビボソジ  
ョウカイ

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 2♂

本種はTakahashi & Kiriyaama (2000)が岐  
阜・三重・京都・石川・兵庫の5県から採集され  
た標本に基づいて記載した種であるが、愛知県か  
らは初めての記録である。近似種の *P. (A.)*  
*pseudolictorius* Takahashi ニセミヤマクビボソジ  
ョウカイに酷似するが、♂交尾器の構造が異なる  
ことによってはっきり区別することができる。

13. *Podabrus (Asiopodabrus) kadowakii*  
Nakane et Makino コクロクビボソジョウカイ

模式産地は隠岐で、本州・四国の山地に広く分  
布するが、桐山(2000a)は稲武町三国山から記  
録している。ほかに次の記録もある。

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 1♂1♀

14. *Habronychus providus* (Kiesenwetter, 1874)  
クロヒゲナガジョウカイ

全国から採集されるが、比較的少ない種類であ  
る。桐山(2000b)は旭町八幡元気村(650m)か  
ら記録している。

15. *Stenothemus badius* (Kiesenwetter) クリイ  
ロジョウカイ

設楽町井戸沢, 7-VIII-1996, 1♀

山地での夏の普通種である。

16. *Themus (Themus) episcopalis purpureo-  
aeneus* Yajima et Nakane キンイロジョウカイ

瀬戸市海上の森, 2-VI-1996, 1♂, 高井泰  
採集; 16-VI-1996, 1♀, 高井泰採集

山地のクリの花などで採集されるが、あまり多  
くはない。

17. *Themus (Themus) midas* (Kiesenwetter)  
ヒメキンイロジョウカイ

瀬戸市海上の森, 26-V-1998, 1♀

前種より小型で、ややくすんだ色彩である。本  
種もあまり多くはない。

18. *Themus (Themus) cyanipennis* Motschul-  
sky アオジョウカイ

桐山(2000a)は稲武町三国山から記録している。山地での夏の普通種である。

19. *Themus (Haplothemus) ohkawai* M. Sato  
カタキンイロジョウカイ

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 1♀

太平洋岸に近い愛知・三重の2県の原生林からしか得られない種であるが、愛知県からは既に長谷川(1996a, 1996b)などの三国山周辺や段戸山周辺からの記録があるので、そんなに珍しいことではないようである。

20. *Athemus (Athemus) suturellus* (Motschulsky) ジョウカイボン

普通種であるが、*suturellus*群として日本には次種を含めた4種が生息し、互いに酷似しているため、♂交尾器や♀腹板末節を見て識別しなければならない。桐山(1997, 2000a)は設楽町胡麻沢林道と稲武町三国山から記録しているが、次の記録もある。

瀬戸市海上の森, 16-VI-1996, 1♂3♀,  
高井泰採集

豊田市広幡町四ツ家, 15-V-2000, 1♂

豊橋市江島(豊川畔), 9-V-2000, 1♂

21. *Athemus (Athemus) nigerrimus* Yajima et Nakane クラヤミジョウカイ

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 1♂2♀

前種とともに*suturellus*群であり、互いに外形は近似しているが、♂交尾器や♀腹板末節の構造によりはつきりと識別することができる。東海地方では前種と混成しているが、前種に較べると少ない。

22. *Athemus (Athemus) aegrotus* (Kiesenwetter) クロホソジョウカイ

夏季になってから各地で出現し、桐山(1997, 2000a)は設楽町裏谷と設楽町三国山から記録しているが、次の記録もある。

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 1♂

23. *Athemus (Athemus) maculieytris* Ishida フチヘリジョウカイ

関東地方以西に分布し、桐山(1997)は設楽町裏谷から記録している。

24. *Athemus (Andrathemus) okuyugawaranus*

Takahashi ホソニセヒメジョウカイ

本州各地で少しづつ採集され、桐山(2000a)は稲武町三国山から記録している。ほかに次の記録もある。

設楽町段戸山, 27-V-1996, 1♀

25. *Athemus (Andrathemus) ishiharai* Ishida イシハラジョウカイ

豊田市広幡町四ツ家, 15-V-2000, 1♂

Ishida(1986)が四国産の標本に基づいて記載した種であるが、その後関東地方でもシノニムとされた*A. (A.) hisamatsii* Ishidaの種名で記録されてきた。東海地方でも随分探していたのだが、今回初めて愛知県から採集することができた。

26. *Athemus (Andrathemus) nakanei* (Wittmer) ミヤマクビアカジョウカイ

本州の山地で広く採集され、桐山(1997)は設楽町井戸沢から記録しているが、次のような記録もある。これらはいずれも上翅が縦縞の斑紋を持っているが、♂交尾器や♀腹板末節は、岐阜県北部などに分布する上翅全体が黒化したものと同一である。

作手村清岳, 9-V-2000, 1♂3♀

豊田市広幡町四ツ家, 15-V-2000, 1♀

27. *Athemus (Andrathemus) vittelinus* (Kiesenwetter) セボシジョウカイ

普通種であり、桐山(1997)は設楽町胡麻沢林道と同町駒ヶ原から記録しているが、次のような記録もある。

豊橋市江島(豊川畔), 9-V-2000, 2♂

立田町福原, 31-V-1992, 1♀

南知多篠島町, 17-V-1954

28. *Athemus (Mikadocantharis) japonicus* (Kiesenwetter) ヒメジョウカイ

普通種であるが、桐山(1997, 2000a)は設楽町井戸沢と稲武町三国山、瀬戸市東京大学愛知演習林から記録している。本州には近似の*A. (M.) alpicolus* Nakane ミヤマヒメジョウカイがいるが、上記の個体は♂交尾器や♀腹板末節などを見た結果、すべてヒメジョウカイであった。

29. *Athemus (Athemellus) insulsus* (Harold) ウスチャジョウカイ

北海道を除いて各地で採集され、桐山(1998, 2000a)は稲武町三国山と瀬戸市東京大学愛知演習林から記録している。稲武町三国山の個体は上翅の色が赤褐色であったが、瀬戸市東京大学愛知演習林からの個体は青黒色であった。どちらの色彩でも♂交尾器には変化はなく、三河地方が上翅全体が赤褐色となるか、青黒色となるかの境界となっているようである。次に記録する個体も赤褐色であった。

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 1♂

岡崎市本宿, 10-IV-1954, 1♀, 大平仁夫  
採集

30. *Athemus (Athemellus) adusticollis* (Kiesenwetter) ムネアカクロジョウカイ

設楽町裏谷, 7-VIII-1996, 1♂

夏季に山地で普通に得られる種である。

31. *Wittmercantharis vulcana* (Lewis) ホッカ  
イジョウカイ

豊橋市江島(豊川畔), 9-V-2000, 2♂

春早くから河川敷のヤナギの枝やノイバラの花をピーティングすると採集できる。木曾川の右岸からも同様にして多数採集している。

32. *Prothemus reinii* (Kiesenwetter) ヒガシマルムネジョウカイ

桐山(1997, 1999, 2000a)は設楽町胡麻沢林道と同町井戸沢、稲武町三国山、小原村荷掛で得ている。通常は6月以降の割合遅く出現する。東海地方では北部へ行くほど上翅全体が黒化する傾向があり、愛知県での個体は次の記録も含めてすべて上翅が縦縞状の斑紋となっていた。東海地方を境にして、それより西には *P. ciusianus* (Kiesenwetter) マルムネジョウカイが分布しており、♂交尾器の構造がわずかに異なっている。

設楽町裏谷, 3-VII-1996, 1♀

豊田市広幡町四ツ家, 15-V-2000, 1♂

瀬戸市海上の森, 2-VI-1996, 2♂2♀, 高井泰採集

#### チビジョウカイ亜科

33. *Malthinus nakanei* Wittmer ウスバツマキ  
ジョウカイ

梅雨の頃、本州と九州の低山帯に出現し、桐山(2000a)は稲武町三国山から記録しているが、次のような記録もある。

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 1♂1♀

設楽町胡麻沢林道, 25-VI-1997, 1♀

34. *Malthinus japonicus* Ohbayashi クロツマキ  
ジョウカイ

稲武町面ノ木峠, 2-VI-2000, 2♂2♀

本州各地で採集されている。

35. *Malthodes longipygus* Wittmer ナガチビ  
ジョウカイ

中部地方より東に分布し、桐山(2000a)は稲武町三国山から記録している。

36. *Malthodes ohbayashii* Wittmer ホンシュウチ  
ビジョウカイ

模式産地は足助町賀茂地区で、現在までは長野県南部と恵那山付近で採集してきた。それより東は近似種の *M. sulcicollis* Kiesenwetter に置き換わっているといわれている。桐山(2000a)は稲武町三国山から記録している。

#### コバネジョウカイ亜科

37. *Tryptherus nigrinus* Brancucci クロコバネ  
ジョウカイ

本州に分布し、桐山(1997)は設楽町胡麻沢林道から記録している。

38. *Tryptherus niponicus* (Lewis) キベリコバネ  
ジョウカイ

全国の山地で少しずつ採集され、桐山(2000a)は稲武町三国山から記録している。

以上38種記録したが、愛知県での調査を開始してから期間がまだ短く、十分なものではない。佐藤(1990)や長谷川(1996a, 1996b)が記録しているムネアカフトジョウカイなどの普通種は、更に調査を続ければ必ず得られるものであり、1981年以降に新しく記載されたオワリクビボンジョウカイ(師勝町が模式産地であり、記載以後の記録は聞いていないが、岐阜県や滋賀県では確認している)を含む *Podabrus* 属の種も、もっと時間をかけて探せば更に増えるものと確信している。

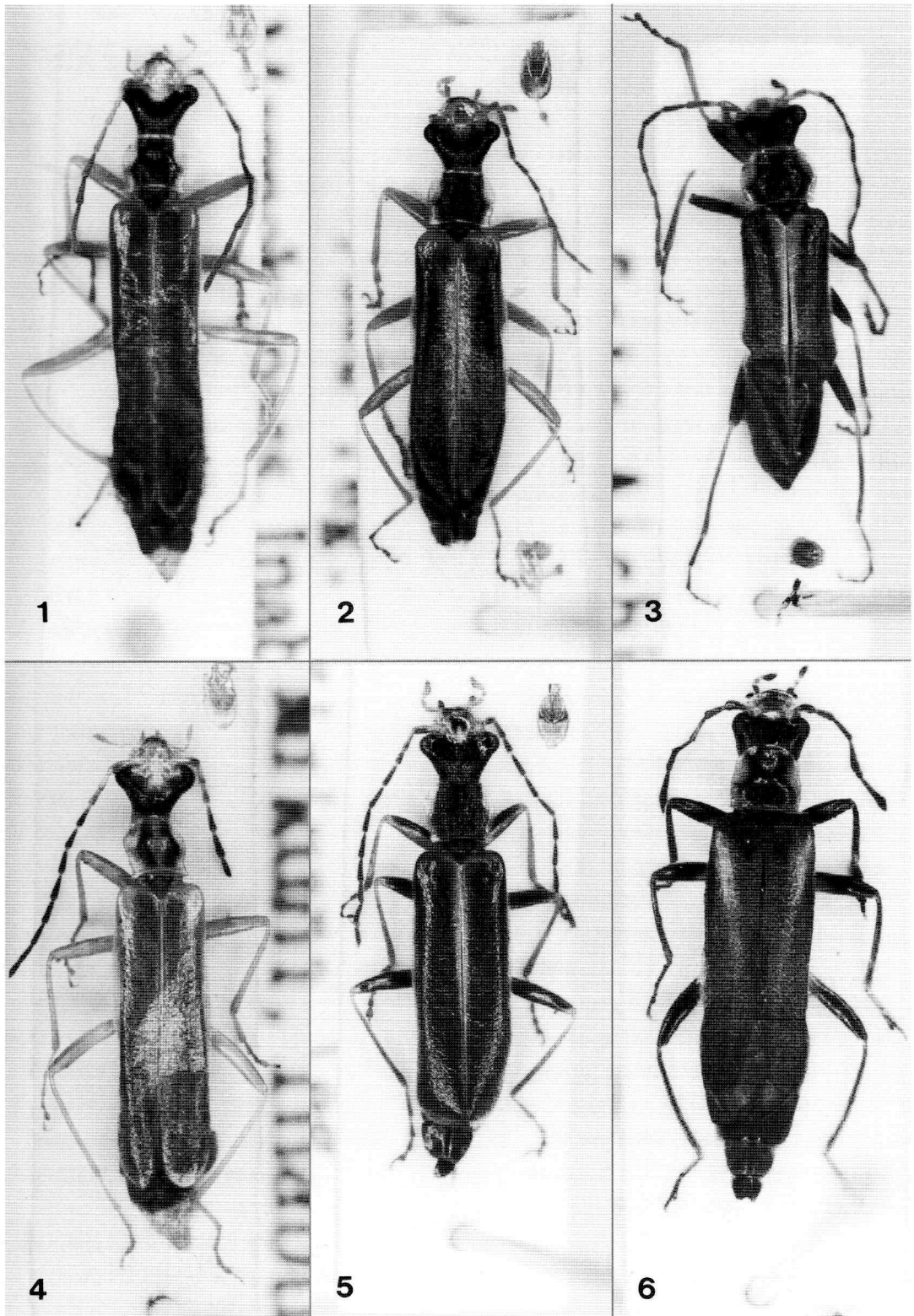


図1：1. クロイサクビボソジョウカイ♂；2. ミヤマクビボソジョウカイ♂；3. ヨシダクビボソジョウカイ♂；  
4. ヒワダクビボソジョウカイ♂；5. ナラトウゲクビボソジョウカイ♂；6. イシハラジョウカイ♂

## 引用文献

長谷川道明(1996a) ジョウカイボン科、稲武町史(自然)資料編:210-211.

長谷川道明(1996b) ジョウカイボン科、設楽町誌(自然編)資料:482-4831.

Ishida, K. (1986) A revision of the two genera, *Athemus* and *Athemellus*, of Japan (Coleopt.), Trans. Shikoku ent. Soc., 17 (4) : 203.

桐山功(1997) 段戸山の軟鞘類(1)、三河の昆虫, (44) ; 427-430.

桐山功(1998) 東京大学愛知演習林の軟鞘類、三河の昆虫, (45) ; 446-447.

桐山功(1999) 小原村の甲虫類、三河の昆虫, (46) ; 460-461.

(46) ; 460-461.

桐山功(2000a) 三国山の軟鞘類、三河の昆虫, (47) ; 484-484.

桐山功(2000b) クロヒゲナガジョウカイを旭町で採集、三河の昆虫, (47) ; 495.

佐藤正孝(1990) 愛知県の甲虫類(I)、愛知県の昆虫:204-231.

Takahashi, K. & I. Kiriyama (2000) Eighteen new species and two new subspecies of the genus *Podabrus* (Canth. Coleopt.) mainly from Gifu Pref. Central Honshu, Japan, Jpn. J. syst. Ent., 6 (1) : 121-146

## オオシモフリスズメを岡崎市で採集

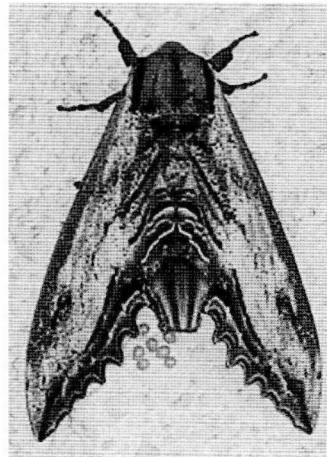
鈴木 栄 二

オオシモフリスズメ (*Langia zenzeroides nawai*) は体が太く、わが国で最も巨大なスズメガとして知られている。分布は九州、四国、本州で愛知県はその東限となっている。

愛知県内の尾張部では、犬山市、瀬戸市、三河部では、北設楽郡東栄町、渥美郡渥美町、豊田市、西加茂郡小原村、藤岡町、東加茂郡足助町が知られている。

今回、岡崎市奥殿町で採集したので、報告する。岡崎市では、初めての記録と思われる。なお、同定や資料の提供をいただいた三浦重光氏並びに大平仁夫氏に厚くお礼申し上げます。

標本: 1♀, 愛知県岡崎市奥殿町 標高(68m), 14-IV-2000, 鈴木採集(図の標本); 1♀, 27-IV-2000, 鈴木採集。



## 引用文献

江崎 梯三ほか(1971) 原色日本蛾類図鑑(下)。(保育社)  
田中 蕃ほか(1991) 愛知県の昆虫(下)。(愛知県農地林務部自然保護課)

三浦 重光(1985) 新編岡崎市史自然14 蛾類。



## 栗原桂一・隆氏採集の静岡県産コメツキムシ

大平仁夫

多摩市に在住の栗原桂一氏とご子息で静岡市に大学生で在住の隆氏が、2000年に採集された静岡県産のコメツキムシの提供をいただいたので、ここに記録する。両氏のご厚意に心から感謝の意を表す。なお、採集年はすべて2000年であるので、本文中での採集年は省略し、姓も煩雑になるので省略した。

1. *Tetrigus lewisi* Candèze, 1873 オオクシヒゲコメツキ

標本：1♂, 静岡市平野, 6-VII, 隆。

静岡県からは大平(2000a)が市代(南ア)から1雌個体を記録している。

2. *Agrypnus (Colaulon) scrofa scrofa* (Candèze, 1873) ヒメサビキコリ

標本：4exs., 静岡市平野, 6-VII, 隆。

河川敷や荒地の砂礫中に見いだされる。後翅の長い種である。

3. *Denticollis nipponensis nipponensis* Ôhira, 1973 ニホンベニコメツキ

標本：1♂, 清水市黒川, 13-V, 隆；1♀, 静岡市大谷崩, 8-VII, 隆。

4. *Hypolithus brunneofuscus* Nakane, 1954 チャグロヒサゴコメツキ(図1D)

標本：1♂2♀, 静岡市大谷崩, 8-VII, 隆。

静岡県からは東(1999)が静岡市安倍峠から、大平(2000a)が東河内(南ア)と西俣(南ア)から記録している。図は体長14mmの雌個体。

5. *Fuleutiauxellus curatus curatus* (Candèze, 1873) ミズギワコメツキ

標本：2♀, 静岡市大谷崩, 8-VII, 隆。

河川敷の砂礫中に広く分布する種である。

6. *Quasimus japonicus* Kishii, 1959 ニホンチビマメコメツキ

標本：1ex., 静岡市安倍峠, 8-VII, 隆。

静岡県からは多比良嘉ほか(1999)が竜頭山

(南ア)から記録している。

7. *Yukoana carinicollis* (Lewis, 1894) ヘリマメコメツキ

標本：1♀, 静岡市安倍峠, 8-VII, 隆。

静岡県から大平(2000b)が丈代林道から記録している。

8. *Paraphotistus niger* (Miwa, 1928) オオヒラタコメツキ

標本：1♀, 清水市黒川, 13-V, 桂一。

静岡県から大平(2000a)が天城山から記録している。

9. *Nothodes marginipennis* (Lewis, 1894) ルイスカネコメツキ(図1B)

標本：1♀, 富士宮市朝霧高原, 1-VII, 桂一。

主として中部から関東地方の山岳地帯に分布する種である。体長は10mm内外。体は真鍮色の鈍い金属光沢を有し、上翅の側縁部は暗黄褐色である。静岡県からは、これが最初の記録と思われる。

10. *Hemicrepidius (Pseudathous) secessus secessus* (Candèze, 1873) クロツヤハダコメツキ

標本：1♂, 静岡市安倍峠, 8-VII, 桂一；1♀, 富士宮市朝霧高原, 9-VII, 桂一。

11. *Ampedus (Ampedus) tenuistriatus* (Lewis, 1894) ホソクロコメツキ(図1C)

標本：1♂, 静岡市安倍峠, 8-VII, 桂一。

体長は9.5mm内外で黒色でやや扁平状。前胸背板の点刻は小形でまばらに印し、上翅の条線は浅く、会合間室と第2間室は扁平状である。本種の原因産地は箱根であるので、原記載によく一致した個体が見いだされた。

12. *Vuilletus viridis viridis* (Lewis, 1894) ミドリヒメコメツキ(図1E)

標本：2♀, 清水市黒川, 13-V, 隆。

地域変異がみられるが、清水市産の個体は、箱

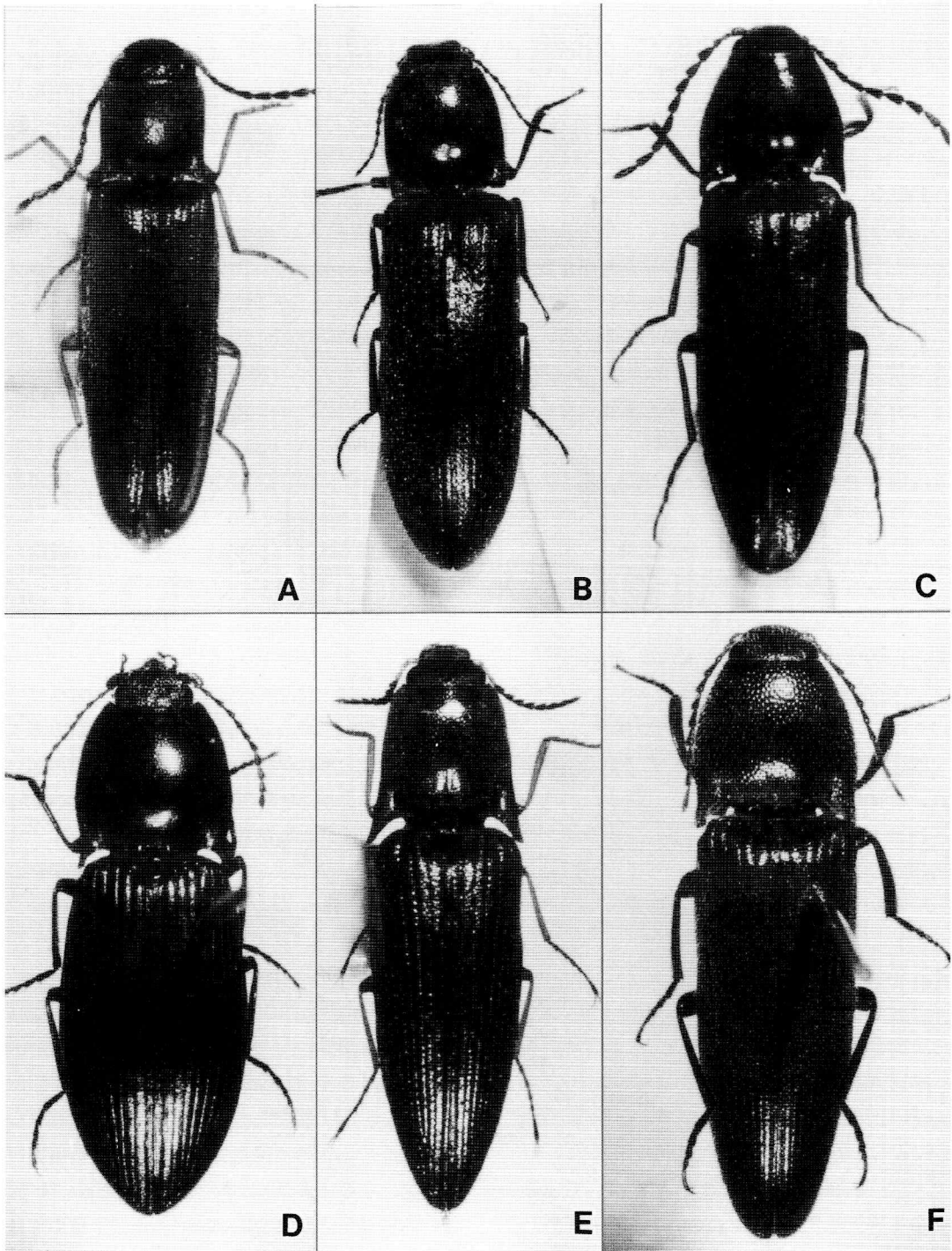


図1. A, クロスジヒメコメツキ; B, ルイスカネコメツキ; C, ホソクロコメツキ; D, チャグロヒサゴコメツキ; E, ミドリヒメコメツキ; F, ヒメクシコメツキ.

根産の個体によく一致していた。図は体長8mmの雌個体。

13. *Dalopius exilis* Kishii, 1956 ナガナカグロヒ

メコメツキ

標本：1♂, 静岡市大谷崩, 8-VII, 隆。

中部地方の山岳地帯に広く分布する種である。

14. *Dalopius patagiatus* (Lewis, 1894) クロスジヒメコメツキ (図 1 A)

標本：1♂, 静岡市安倍峠, 8-VII, 隆。

静岡県からは多比良嘉ほか (1999) が竜頭山 (南ア) から記録している。一般外形は前種に類似しているが、より小形で触角もより短い。図は体長 5 mm の雄個体。

15. *Ectinus insidiosus* (Lewis, 1894) キアシクロムナボソコメツキ

標本：1♀, 静岡市大谷崩, 8-VII, 隆。

静岡県からは大平 (2000a) が富士山から、大平 (2000b) が静岡市大谷崩と静岡市サワラ島から記録している。

16. *Melanotus (Melanotus) legatoides* Kishii, 1975 ヒメクシコメツキ (図 1 F)

標本：1♀, 静岡市富士見峠, 8-VII, 隆。

各地に広く分布する種である。静岡県からはこれが最初の記録と思われる。図は体長 17 mm の雌個体。

17. *Melanotus (Melanotus) legatus legatus* Candèze, 1860 クシコメツキ

標本：1♂, 静岡市瀬名, 13-V, 桂一。

18. *Melanotus (Melanotus) annosus* Candèze, 1865 クロツヤクシコメツキ

標本：1♀, 富士見宮市朝霧高原, 1-VII, 桂一。

各地に広く分布する種であるが、静岡県からはこれが最初の記録と思われる。

19. *Melanotus (Melanotus) fortnumi fortnumi* Candèze, 1878 マルクビクシコメツキ

標本：1♂, 富士宮市朝霧高原, 1-VII, 桂一。

静岡大学農学部におられた故吉田正義先生が、*M. caudex* Lewis, 1879 の学名で幼虫や成虫の研究をされた種である。

20. *Melanotus (Spheniscosomus) cete cete* Candèze, 1860 アカアシオオクシコメツキ

標本：1♀, 静岡市瀬名, 13-V, 桂一。

21. *Displatynychus adjutor* (Candèze, 1873) アカアシハナコメツキ

標本：1♂, 静岡市瀬名, 13-V, 桂一。

河川敷などの砂地帯の畑や草地でよく見かけられる種である。静岡県からはこれが最初の記録と思われる。

### 引用文献

大平仁夫 (2000a) 故草間慶一先生採集の静岡県産コメツキムシ類。三河の昆虫, (47) : 480-483.  
(2000b) 栗原 隆氏採取の静岡県産コメツキムシ。三河の昆虫, (47) : 483-484.  
東 浩司 (1999) 杉本可能氏の採取による静岡県産コメツキムシ。静岡の甲虫, 11 (1/2) : 55.  
多比良嘉見・加藤 徹・松本雅道 (1999) 竜頭山の甲虫類。静岡の甲虫 11 (1/2) : 10-2, 4pls.

## 愛知県でマルツヤマグソコガネと コケシマグソコガネを採集

金 田 吉 高 城 殿 浩

筆者らは、愛知県では未記録と思われる下記の 2 種のマグソコガネを採集することができたので、ここに記録する。

1. *Aphodius troitskyi* Jacobson

マルツヤマグソコガネ

標本：一宮町本宮山, 3exs., 10-VI-2000.

2. *Myrhessus samurai* Balthasar

コケシマグソコガネ

標本：豊田市平井, 1ex., 4-V-2000.

### 参考文献

愛知県農林務部自然保護課 (1990) 愛知県の昆虫 (上).

## ナガサキアゲハ幡豆町や吉良町で採集

小 野 健

ナガサキアゲハが渥美半島や知多半島に分布する記録は多くありますし、筆者も知多半島内海での記録は、本誌47号(2000)に報告しました。しかし、幡豆町や吉良町での記録はまだ無いと思われるので、ここに報告します。

1. 採集場所：吉良町宮崎、県道316号線沿い(夏型2♂採集、夏型1♀確認)；宮崎山頂、夏型3♂確認。

採集日：7-IX-2000.

2. 採集場所：幡豆町東幡豆中柴(浜ノ山)(夏

型2♂2♀採集)；愛知こどもの国で飛翔中の2♂を確認。

採集日：8-IX-2000.

3. 採集場所：幡豆町東幡豆洲崎西池(夏型14♂を確認、12♂を採集)。

採集日：10-IX-2000.

以上のことから、本種は幡豆町に土着していると考えられます。ここでは、ミカン畑では見られなく、竹藪の周辺で多く見られました。

## 城殿 浩氏採集のコメツキムシ (2000年)

大 平 仁 夫

岡崎市の城殿 浩氏から、同氏が採集されたコメツキムシの資料の提供をいただいたので、ここに記録する。城殿氏の厚意にこころから感謝の意を表する。

### 〔愛知県〕

1. *Dennticolis nipponensis* Ôhira, 1973

ニホンベニコメツキ

標本：1♂，稲武町面ノ木峠，27-V-2000.

2. *Displatynychus adjutor* (Candèze, 1873)

アカアシハナコメツキ

標本：1♀，三河本宮山，18-V-2000.

### 〔岐阜県〕

1. *Parathous comes comes* (Lewis, 1894)

ヤイロツヤハダコメツキ

標本：1♂，坂内村品又峠，22-VII-2000.

2. *Ectinus insidiosus* (Lewis, 1894)

キアシクロムナボソコメツキ

標本：4exs., 22-VII-2000.

### 〔長野県〕

1. *Agrypnus (Colaulon) scrofa scrofa* (Candèze, 1873)

ヒメサビキコリ

標本：3♂2♀，3-V-2000.

2. *Yukoana terukoe* Kishii, 1961  
ホソコマメコメツキ

(図1)

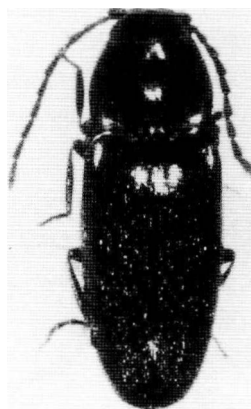


図1；ホソコマメコメツキ

標本：3exs., 21-V-2000.

体長3.5mm内外で黒色、楕円形状の種である。中部から近畿地方の山地の広葉雑木林に分布している。長野県からはこれが最初の記録と思われる。

3. *Vuilletus viridis viridis* (Lewis, 1894)

ミドリヒメコメツキ

標本：1♀，野沢温泉毛無山，21-V-2000.  
 4. *Cardiophorus pinguis* Lewis. 1894  
 クロハナコメツキ  
 標本：1ex., 21-V-2000.

5. *Paracardiophorus opacus* (Lewis. 1894)  
 クロコハナコメツキ  
 標本：2exs., 大鹿村塩川，3-V-2000.

## カメムシ類の最近の記録から

浅岡孝知

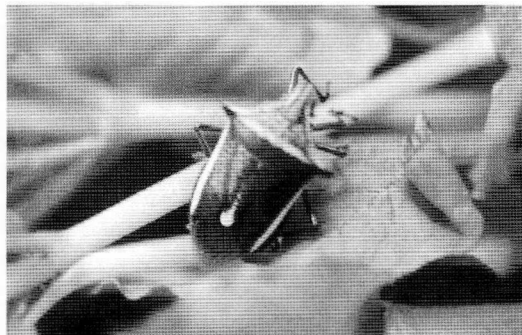
愛知県で確認されているカメムシ類の中で、記録しておいた方がよいと思われる次の種について報告する。

### 1. シロヘリクチブトカメムシ

*Andrallus spinidens* (Fabricius, 1787)

本種はミナミトゲヘリカメムシ *Paradasynus spinosus* Hsiao, 1963と同様に南方系の種であり、大型で日につきやすいことから各地で記録されるようになってきている。

本種の既知産地は、豊橋市・岡崎市・安城市・豊田市である。これまでの記録は秋季が多い。筆者は豊橋市において、4月に記録することができたので報告する。このことは越冬の可能性がでて



葉上で静止するシロヘリクチブトカメムシ

きたことを示唆していると思われる。  
 豊橋市天伯町 10-IV-2000, 1♂

### 2. ウシカメムシ

*Alcimocoris japonensis* (Scott, 1880)

本種は県内広く分布していることが判明しているものの個体数は少ない種である。名古屋市内で確認されている。都会でもセミに関係して見いだされることがあるとの報告例がある。

名古屋市東区主税町 24-I-1998, 1ex.

### 3. ヒメジュウジナガカメムシ

*Tropidothorax belogolowi* (Jakovlev, 1890)

本種は出現期が秋季に多く見いだされることから、記録が少ないが比較的個体数は多い。名古屋市で確認されている。

名古屋市緑区大高緑地公園 3-XI-2000, 4exs.

2と3については、蜘蛛類研究家の小笠原幸恵氏の採集であり、標本は筆者が保管している。末尾ながら、快く恵与くださった小笠原氏に感謝申し上げます。

# 岡崎市に分布する2種のゲンゴロウ

大平 仁 夫

1999年6月に、岡崎市の湿地を調査する機会があり、主としてヒメタイコウチやハッチョウトンボなどの生息状態を調べたが、その折りに下記の2種のゲンゴロウが見いだされたのでここに報告する。なお、この調査に同行して支援をいただいた三河野生動物研究会の永井 貞氏、標本を同定して種々のご教示をいただいた吸田市の北山 昭氏に心から感謝の意を表する。

## 1. *Agabus optatus* Sharp, 1884

ホソクロマメゲンゴロウ (図A)

体長は7mm内外。黒色で光沢を有し、触角や小顎肢は黄褐色、肢は黒褐色で、付節は暗褐色である。

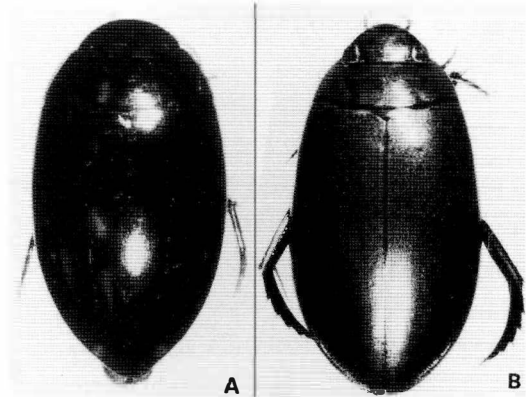
森・北山(1993)の図説では「頭頂に1対の暗赤紋をもつ」とされているが、この標本では赤紋は判然としない。なお、この種は前記の森・北山の図説でクロマメゲンゴロウとして図説されたものと同じということである。本種の愛知県での分布は佐藤(1990)によれば、稲武町の月ヶ平と豊田市明治ダム下から記録されている。また、長谷川(1996a)は稲武町面ノ木峠から、長谷川(199b)は説楽町の神田一の谷林道、裏谷、西納倉から記録されているので、本種は湧き水のある清水域には広く分布しているようである。

標本：2exs., 岡崎市小呂町, 13-VI-1999, 大平採集。

## 2. *Rhantus erraticus* Sharp, 1884

オオヒメゲンゴロウ (図B)

体長は12mm内外。体はやや扁平状で暗褐色。頭部の前頭部、前胸背板の中央部には判然としない黒斑を有し、上翅には黒色の不規則な縞状紋を密



ホソクロマメゲンゴロウ

オオヒメゲンゴロウ

に生ずる。小顎肢と触角は褐色である。

北山氏のご教示によれば、本種は個体数が少なく、愛知県からは未記録種と思われるということである。また、本種は林内の落ち葉がたまつたような暗くて浅い池によく見られるということであるが、このたび見いだされた場所も、日当たりの悪い湿地の浅い小川であった。

標本：2exs., 岡崎市小呂町, 13-VI-1999, 大平採集。

## 引用文献

長谷川(1996a) 稲武町史-自然-資料編：189. (稲武町)

——(1996b) 稲武町誌-自然編-資料：457. (設楽町)

森 正人・北山 昭(1993) 図説 日本のゲンゴロウ。(文一総合出版)

佐藤正孝(1990) 愛知県の甲虫類(1)。愛知の昆虫(上)：204-231。(愛知県)

# 愛知県とその周辺で得たチャグロマグソコガネとイシダマグソコガネについて

城 殿 浩

筆者はこの冬、これまでに採集したマグソコガネ亜科を整理したところ、愛知県では記録が少ない2種のマグソコガネを得ていることが分かった。また、県外でも複数の地域でこれらの種を得ていたので、ここに報告する。

## 1. *Aphodius isaburoi* Nakane

チャグロマグソコガネ

「愛知県」足助町寧比曾岳, 14-IV-1994 (1ex.) ; 富山村八岳山, 2-IV-1995 (2exs.) ; 富山村日本ヶ塚山, 16-IV-1995 (5exs.) ; 一宮町本宮山, 9-IV-2000 (1ex.).

「岐阜県」福岡町二ツ森山, 12-IV-1992 (35exs.) ; 坂内村池之又, 29-X-1994 (11exs.).

「静岡県」静岡市甚カ行峰, 8-XI-1998 (2exs.) ; 水窪町奈良代山, 26-IV-1992 (3exs.) ; 中伊豆町遠笠山, 25-XI-1995 (41exs.).

「長野県」飯島町シオジ平, 28-IV-1996 (1ex.) ; 浪合村蛇峠山, 18-IV-1998 (7exs.) ; 喬木村赤石峠, 17-IV-1999 (1ex.).

「滋賀県」多賀町霊仙山, 10-X-1994 (20exs.) ; 朽木村生杉, 21-XI-1999 (8exs.).

「奈良県」野迫川村荒神岳, 8-IV-2000 (40exs.).

## 2. *Oxyomus ishidai* Nakane

イシダマグソコガネ

「愛知県」富山村日本ヶ塚山, 16-IV-1995 (4exs.).

「岐阜県」福岡町二ツ森山, 12-IV-1992 (多数).

「静岡県」水窪町奈良代山, 26-IV-1992 (2exs.).

「長野県」浪合村蛇峠山, 18-IV-1998 (2exs.).

## 参考文献

愛知県農林務部自然保護課(1990)愛知県の昆虫(I).

末尾ながら、これらの種の同定について指導を頂いた岡崎市の金田吉高氏、および記録について教えて頂いた豊橋市の長谷川道明氏に感謝の意を表する。

# 安城市でナガサキアゲハとクモガタヒヨウモンを記録

小 鹿 亨

筆者は安城市内において未記録と思われるチョウ2種を、勤務する安城市立明祥中学校(安城市東端町大久手)において、目撃・採集しているのを記録として報告する。

## 1 ナガサキアゲハ *Papilio memnon thungergii*

VON SIBOLD

《データ》1♂目撃 2000年7月15日

校舎の間に迷い込んできたようで、しばらく出口を探しながら中庭を2~3回飛び回ると、校舎を飛び越えていった。残念ながら、手元に捕虫網

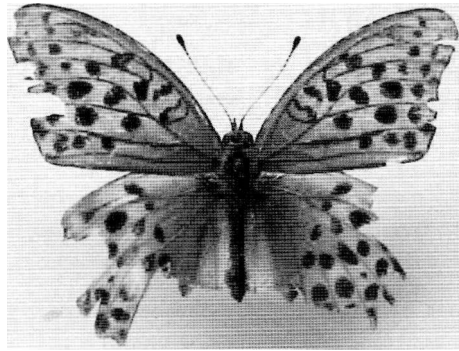
もなく高い位置を飛んでいたのが、採集できなかったが、鮮度の良さそうな♂であった。

ナガサキアゲハは近年、県内でも多く目撃・採集されており、その動態が注目される種である。特に知多半島や幡豆郡での記録が多いようだが、筆者も5月17日にミカワオサムシの採集のために、知多郡南知多町へ行った際に現地でも1♂を採集している。

1 クモガタヒヨウモン *Nephargynnis anayomene ella* BREMER

《データ》1♂ 2000年10月10日

校舎内に入って、廊下の犬井に静止しているとところを見つけたが、すでに大破していた個体である。おそらくは、本来の発生地である低山地から平野部へ移動してきたもので、大型ヒヨウモン類にしばしば見られる秋季の里降り現象の一つであ



ると考えられる。しかし、本種はこれまで西三河の平野部ではほとんど記録されたことのない種で、安城市が平野の真ん中にあることから、かなりの距離を移動してきたものと考えられる。

## 三河地方の古きよき時代

三河昆虫研究会の前身は、1951年前後に岐阜の「東海昆虫同好会」や「濃飛昆虫同好」などが合併して誕生した「中部昆虫同好会」で、本部は故神谷一男先生の研究室があった愛知学芸大学安城分校である。その発足の趣意書の名文が見つかった。当時は皆若くて希望に燃えていた古きよき時代であった。趣意書の発行は1951年12月である。年会費は300円で100円づつ分納できた。

### 中部昆虫同好会趣意書

中部地方は裏にアルプスの連峰と数知れぬ未開拓の山々が我々を待っている。日本一の昆虫の宝庫を目前に控へ、その上日本中心部であり、北方の山々に、また南方の山々にその夢を自在に走らす事が出来非常に恵まれた位置にある事は皆様の週知の事である。この土地にあつて昆虫熱が泉の如く湧き出て来ないのが不思議である。本同好会は中部の昆虫同好会がお互いに連絡し助け合い我々の力で此の中部の昆虫を開拓して行き且つ自然に対する豊かな常識を養い、ひいては将来に対する一土台ともなり学会にも寄興したい。同好者よ来れ!! お互に苦しみお互に協力し合つて行こうではないか。皆様の御援助によつて本会が健全なる発展を遂げる事を確信する。一人でも多くの同好者に御紹介の上御協力下さるようお願いするものである。

発起人一同



## 三河虫屋シリーズ4

## 昆虫三昧

山崎隆弘

もう、かれこれ35年少々になろうか。「よくも長年飽きずに続けてきたもんだ」と自分にちょっとばかり感心しつつ、私の昆虫人生を振り返ってみたいと思う。まもなく60歳を迎えようとしているが、日々青年気分で呑気に過ごしている。それを恥ずべきか、悦ぶべきか妙な気分になる今日この頃である。

私の昆虫事始めは23才頃だったと思うがはっきりとしなない。もともと小学生の頃から昆虫が好きで、近くの雑木林へクワガタ採りに行ったりしていた。そんな私にも忘れることのできないことがひとつある。当時、子ども心にも落ち込んで心がすさむことがしばしばあった。そんな時一人でよく出かけたのが近くの畑や川の土手であった。秋の好天下足元に元気良く飛び交うベニシジミがよくいた。この小さな蝶が一生懸命に生きている光景は何時も同じであった。それを見ているだけで、いつの間にか心が和んできた。そんな空間に山崎少年がよく身体を置いていることがあった。

23才のある日のこと、道端に舞うベニシジミが目にとまった。ふと、あの日の少年時代が甦ってきた。「そうだ自分は昆虫を趣味にして人生を送ろう」と本気で思った。早速、子どもの図鑑を参考に昆虫採集を始めることにした。当時は手づくりで道具を揃え、近隣の雑木林で生物学者気取りで得意顔になって走り回るのが日課となり満足な日々を重ねていたのである。

やがて近隣の採集も飽きた頃、私は初めての遠出(?)として「鳳来寺山」へ出掛けた。そこで幸運にも出会えたのが、今もなお世話になっている恩師の大平仁夫先生であった。思えばその時の出会いがなければ、到底今の豊かな人生は得られなかったに違いないと思う。

これを機に先生の標本や資料を見せて戴く機会に恵まれた。本物の昆虫学というものを目のあた

りにしてひとつのショックを浴びた。無謀にも私には無理を承知で、この世界に飛び込もうと勝手に決めたのである。

そんな頃、機をよくして「三河昆虫研究会」が発足した。大平仁夫先生を中心にした和やかなサークル活動であった。当時の私はとにかく見よう見真似で大平仁夫先生をはじめ、高柳久和先生、鈴木友之氏らの後をついていったのである。

その後、研究会のメンバーの照井正康氏、伴憲隆氏、松野更一氏、竹内克豊氏、浅岡孝知氏らとの昆虫採集に明け暮れる日々が続いた。出掛ける度に新しい種を見つけては自慢するのが楽しくて弾みが付くばかりであった。その成果は研究会の会報に発表したりしたので、これがまたお互いの励みとなった。さらに研究会を通じて多くの方々と素晴らしい交流をさせていただいたことは何よりも嬉しいことである。穂積俊文先生、原田猪津夫先生、蟹江昇氏をはじめ研究会の各諸氏には本当に世話になった。この紙面を借りて心からお礼を申し上げたい。

そうした方々とやった「昆虫展」の開催も勉強になったし楽しかった。一般の人に「昆虫の世界」の素晴らしさをアピールしながら、交流ができるのが嬉しかった。こうした事が好きなので、今日までに多くの展示会に参加したり自分自身も手掛けたりして続けている次第である。

この中であって、私の場合は「昆虫研究家」と言うよりは「昆虫趣味人」と呼んだ方が正しいかも知れない。しかし、少しやっていると「研究者のはしっくれでもいいから認められたらいいな」と思うようになってしまった。そんなことかどうかは分からないが、自分で好きな分野を決めて取り組むようになったようだ。私の場合は甲虫類の「ハムシ科」を選んでやっているが、まだ専門家になれずにいるので大したことはない。



図1. 1965年秋、岡崎市「オカダヤ」で三河昆虫研究会等で開催した「沖縄の蝶と三河の昆虫展」の会場にて。



図2. 1999年夏、「知立市図書館」で私の収集品で開いた「あいちの昆虫探検展」。



図3. 1967年頃、大平先生（後列中央）らと三河湾の「篠島」の昆虫調査に向かう船上でのひととき（私は後列の右）。



図4. 1969年夏、長野県「車山」にて三河昆虫研究会の採集会で案内役の私（左端）。

暫く虫屋生活をしていると、私でもたまには新種を発見して、学会に貢献することもある。三河地方から大平先生によって記載された「ミカワサビキコリ」と「ミドリヒメコメツキ」の2種がそうである。だからこの世界は面白いことが時々やって来るから辞められなくなるのである。

私の日常の採集地は愛知県下であるが、たまには長野県や北海道、沖縄方面まで出掛けたりしている。それでも一番関心を抱くのはやっぱり地元愛知県である。とりわけ三河湾の島嶼が好きで、浅岡孝知氏と何度も調査に出掛けたりした。そしてこの成果は10年前に「三河湾島の昆虫」として自費出版という形でひとまず締めくくった。その

時、研究会の皆さんからは出版のお祝いをして戴いたので本当に嬉しかった。このことは生涯忘れることができない思い出である。

私もこの年になって、昆虫の世界は本当に奥が深いことを実感するようになった。長年やっているにも係わらず、未だに素人昆虫家である。今日も多大な標本や文献の整理に追われてくたくたになっている。これは一体何であろうか。昆虫がやたらと好きなだけで何の理由もない。しかしこうした人生も決して悪くないと思う。だからこそ、明日もまた昆虫の世界で暮らす自分が、きっとそこにあるに違いない。